

会 議 録

附属機関又は 会議体の名称		令和3年度第1回 豊島区環境審議会
事務局（担当課）		環境清掃部 環境政策課
開催日時		令和3年5月27日（木）15時30分～17時00分
開催場所		豊島区役所 庁議室
議 題		1 開 会 2 議 題 （1）2019年度における環境基本計画の進捗状況について （2）リーディングプロジェクトの進捗状況について （3）「2050としまゼロカーボン戦略（仮称）」策定について 3 その他 4 閉 会
公開の 可否	会 議	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部非公開 傍聴人数 0名
	会 議 録	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部非公開
出席者	委 員	蟹江憲史、柳井重人、関礼子、高橋正弘、岡山朋子、工藤泰子、土岐有紀子、岡野俊也、和田仁志、中山映未、大嶋聡、生田茂、小堀大藏、紫垣敬子、町田信子、村上政美、高桑光浩（環境清掃部長）（敬称略）
	そ の 他	企画課長、施設整備課長、環境政策課長、環境保全課長、ごみ減量推進課長、豊島清掃事務所長、都市計画課長、公園緑地課長
	事 務 局	環境政策課 環境政策担当係長（環境計画）、同主事2名 環境政策課 環境政策担当係長（調整） 環境政策課 環境政策担当係長（事業）

審 議 経 過

○環境政策課長 皆様、お世話になります。環境政策課長の岡田でございます。

本日は前の会議が押していたもので開始が30分ほど遅れてしまいました。大変申し訳ございません。

開始時刻となりましたので、ただいまより令和3年度第1回「豊島区環境審議会」を開始させていただきたいと思っております。

私は、事務局を担当しております環境政策課長の岡田と申します。昨年4月からの着任でございます。昨年度はコロナの関係もございましてなかなか審議会の開催ができず、また、本日も感染症対策、防止の観点から、ウェブ会議で開催させていただきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

ご発言いただく際には挙手をしていただくか、あるいはZoomの挙手ボタンというものがございますので、そちらで意思表示をしていただき発言をしていただきますようお願い申し上げます。どうぞよろしくお願いいたします。

それから、お手数でございますけれども、発言の際はご自身でミュートの解除、発言をしないという設定にしている方につきましては解除していただきまして、ご本人を特定するためにお名前をおっしゃっていただきますと、後々、議事録等の作成等にも使うこととなりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、蟹江会長、今日はZoomという形でございますが、進行をよろしくお願いいたします。

○会長 皆さん、お久しぶりです。いつもですとなかなか顔が見えないところですけども、Zoomなので顔がばっちり見えて、案外これはこれでやりやすいかと思っています。現場の方々もよろしくお願いいたします。

それでは、ただいまから令和3年度第1回「豊島区環境審議会」を開催いたします。

初めに、事務局から、本日の出欠についてご報告をお願いいたします。

○環境政策課長 現在、17名の委員の方が出席ということでございます。豊島区環境審議会規則第5条の規定に定める定足数を満たしている状況でございます。

本日にしましては、村山委員、重田委員、区側の近藤委員の3名が欠席という状況でございます。

また、幹事でございますけれども、一部区職員につきましては、感染症対策の関係で人数を絞った形で運営をさせていただきたいと思っております。本日の質疑の中で担当の幹事が不在でお答えできない場合は、一旦預からせていただきまして、また改めて私どものほうからご回答させていただくという運用になろうかと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。以上でございます。

○会長 ありがとうございます。

それから委員の委嘱と交代について併せて報告をお願いします。

○環境政策課長 今回の審議会より1名新たに追加という形で委嘱をさせていただきます。ご紹介させていただきます。

一般財団法人日本気象協会主任技師、工藤泰子委員でございます。

また、委員の交代が3名ございましたので、併せてご紹介させていただきます。

東京電力パワーグリッド株式会社大塚支社長、土岐有紀子委員でございます。

続きまして、株式会社サンシャインシティ総務部リーダー、中山映未委員でございます。

それから、区側でございます。

環境清掃部長、高桑光浩委員でございます。

本来でしたら、新しい委員の方々にお一人お一人委嘱状を渡すところでございますけれども、オンラインで開催をしているという都合もございまして、皆様方には郵送にてご送付させていただきたいと思っておりますので、これをもって委嘱に代えさせていただきたいと思っております。

なお、委員の任期でございますけれども、本日からの委嘱の委員につきましては、令和3年5月27日から令和4年1月16日までとなっております。よろしく願いいたします。

○会長 ありがとうございます。

日本気象協会は、ちょうど豊島区内に協会があるということで、今回、気候変動関係、ゼロカーボン戦略の議論をするので、ぜひ入っていただけたらうれしいなと思っていたところ、工藤さんに委員になっていただきました。本当にありがとうございます。

そのほかの方も、新しい方も、どうぞよろしくお願いいたします。

それから、前回欠席された委員についてもご紹介をお願いできますでしょうか。

○環境政策課長 それでは、2名いらっしゃいますのでご紹介させていただきたいと思っております。

まず、大正大学地域創生学部教授、岡山朋子委員でございます。

それから、豊島区町会連合会副会長の重田軍司委員でございますが、本日も所用ため欠席ということでございますので、次回にまたご紹介させていただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

○会長 ありがとうございます。

それから、本日の傍聴の方はいらっしゃいますでしょうか。

○環境政策課長 本日、傍聴の方はいらっしゃいません。

○会長 了解です。

それでは、以上が初めの定例のお話になりますので、これ以降、議事を進めさせていただきます。

お手元に議事次第があると思います。オンラインの方も何らかの形で、画面上にあるかと思えますけれども、議事について、本日は3つほど議題があります。事務局から説明をお願いいたします。

○環境政策課長 まず、お手元の資料の確認でございます。過不足はないかと思えますけれども、一応確認させていただきます。

まず、資料第1-1号「2019年度『豊島区環境基本計画2019-2030』成果指標・取組指標の評価結果」でございます。

それから、その次の資料第1-1号（参考）でございますが、2018年度の同様の評価結果をつけてございます。

それから、資料第1-1号（別紙）は、各個別の評価項目の進捗状況の表をA4サイズの横向きつけてございます。

それから、資料第1-2号「豊島区環境基本計画におけるSDGsの位置づけについて」。

資料第1-3号「リーディングプロジェクトの進捗状況について」。

資料第1-4号「『2050としまゼロカーボン戦略（仮称）』」策定について」。

資料第1-5号「2050年二酸化炭素排出実質ゼロ表明自治体」。

資料第1-6号「ゼロカーボン戦略策定に向けた基礎データ」。

資料第1-7号「自治体間連携によるカーボン・オフセット事業について」。

資料第1-8号「秩父新電力による豊島区公共施設への電力供給について」。

資料第1-9号「エコアクション21の更新について」。

資料第1-10号「豊島区の環境施策に関するご意見等について（概要）」となっております。この資料第1-10号のご意見等につきましては、昨年末に各委員の方々にゼロカーボンに関するご意見、ご要望等を伺ったところでございますけれども、その内容と取組状況を一表にまとめさせていただいたものでございます。

説明は以上でございますが、訂正につきまして一言申し上げたいと思います。

資料第1-1号でございますが、ページの右上に快適環境の取組指標というものがございます。黄色で網かけされたところでございますが、この快適環境の上から4番目の実績値でございますが、2万3516となっているものでございますが、こちらは1万1758が正しい数字でございます。これ以降、資料第1-1号の別紙、また資料第1-3号につきましても同様の数字が載っております、そちらの訂正がございます。大変申し訳ございません。

もしご不明な点がありましたら、本日の訂正部分につきまして後ほどメールにて皆さま方に共有させていただきたいと思っておりますので、もし本日の進行上、聞き取りづらいいあるいは分からなかったということがありましたら、事務局までお寄せいただければと思っておりますのでございます。

説明は以上でございます。

○会長 ありがとうございます。

1か所訂正のところですが、会場の方々は大丈夫でしょうか。オンラインの方々が聞き取れていない場合のために、もし可能であれば Zoom のチャットのところに訂正後の数字を入れておいていただくと分かりやすいのではないかと思います。難しければ、またそのところに触れたときで結構です。

それでは、これから議事に入りたいと思います。

今回の議事は、2019 年度の環境基本計画の進捗状況、リーディングプロジェクトの進捗状況、「2050 としまゼロカーボン戦略（仮称）」の策定についてという3点になります。

まず、最初の議題について、事務局から説明をお願いします。

○環境政策課長 それでは、お時間の関係もございますので、主立った点のみを抽出した形でご説明申し上げたいと思います。資料第 1-1 号をお取り出しいただきたいと思います。こちらの表は、2019 年度、つまり令和元年度の基本計画の進捗状況一表にしたものでございます。

主立ったところで申しますと、1 番の脱炭素化の取組指標の上から 6 番目でございます。電気バスの導入につきましては実績値 10 台でございます。目標値が 10 ということで 100%の達成となっております。そして、目安値というものがございまして、2030 年に向けた達成度を数値にしたものでございます。2030 年に目標を達成するために、基準年からすると今の時点でどれくらいの数値を達成していないと 2030 年の目標を達成できないかといった値になっておりまして、実績値と比較して大幅に上回っていることから◎という評価でございます。

次に、脱炭素化の取組指標の一番下でございます。雨水流出抑制対策済量というものがございまして、こちらについてはまだ取組が十分進んでいないことから、評価が△、目標に対する進捗度が 0.4%となっております。

次の自然共生に移りたいと思いますが、自然共生の成果指標の一番上、生きもの調査に参加する区民の数というものがございます。こちらにつきましては目安値を上回っているということと、目標に対する進捗度についてはまだ 31%の達成状況ではございますけれども、実績と目安値の差が 10%以上大きく上回っていることから、◎の評価になっているものでございます。

次にその2つ下でございます。緑視率が 25%以上の箇所の割合でございまして、目標に関する進捗度が 3600%になっております。こちらは相当程度の目標は達成しているというところではございますが、指標の取り方が、かなり小数の細かい数字から逆算した数字になってございますので、目標に対する進捗度が大きな数字になっているところでございます。一言で申しますと、目標については達成しておりますが、まだまだ今後も取組が必要だという認識をしているところでございます。決して目標を達成したからといってここで取組が終わるということは考えてございません。今後も取組についてはさらに強化もしながら進めてまいります。

それから、3番目でございます。オレンジ色で網かけをしたところでございますが、資源循環でございます。

取組指標の欄の一番上のところでございます。食品ロスに関する啓発講座の実施回数が、基準値である平成29年度の数値からしますと実績が下回っていることからマイナス50%、評価につきましては目安値も下回っていることから△の評価といった状況でございます。

それから、その2つ下でございます。こちらも取組指標でございますが、ごみ減量に関する出前講座の実施回数でございます。こちらも同様でございますが、目標に対する進捗度がマイナス383.3%でございますが、評価についても△でございます。

それから、右側に移らせていただきまして、黄色で網かけをした4番でございます。快適環境でございますが、上から3番目のごみゼロデー参加人数につきましては、目標に対する進捗度がマイナス343.1%と大きく下回っているというところから、評価も△になってございます。

次に快適環境の取組指標につきましては、おおむね目安値を達成している状況でございますので、評価が◎といったところでございます。ただし、まだ目標値に対しては下回っているものもございまして、現在の目安値を、実績値が上回っていることから、◎が多くなっているという状況でございます。

それから、5番目でございます。連携・協働という欄でございます。

成果指標のところの評価がないということをお気づきになっているかと思いますが、こちらは区民意識調査で数値を取るようになっております。2019年にはこの区民意識調査を行っておりませんのでデータがないということから、－という表記になっているという状況でございます。

それから、その下の連携・協働の取組指標でございますけれども、一番上の多様な人に向けた環境に関する啓発講座等の参加者数につきましては、実績値が目安値も下回っており、目標値に対しても大きく下回っているという状況から△の評価となっております。

その下の環境教育支援プログラムの参加校、学校での実施状況と捉えていただければと思いますが、こちらにつきましては目安値を大きく上回っていることから◎の評価でございます。

それから、下から2つ目でございます。家庭・事業所での優れた取組みに対する表彰数につきましては、この目標値と目安値、それから実績値とありますけれども、その都度、表彰に関する推薦状況といったことにも左右されることから、なかなか目標に対して実績値を上げていくということは、人数だけではなくて、日頃からそういった活動に取り組んでくださっているようなインセンティブや啓発等を行っていくといった難しさがあるかと思っております。そうしたところから△といった評価になっているところがございます。

進捗状況につきましては以上でございますが、次のページには参考に、2018年度の評価の結果をお示ししてございます。全体的な傾向としては大きく変更はございません。

それから、個別の表は非常にボリュームが多いものですから説明は割愛させていただきますが、それぞれのデータの進捗状況、あるいは評価、分析につきまして、それぞれコメントも記載してございますので、もし本日お気づきにならなければ、後ほど、こういった点を加えてはどうだというご意見などもいただければと思っております。

説明は以上でございます。よろしく申し上げます。

○会長 ありがとうございます。

それから、オンラインの方はチャットのところに先ほどのポイ捨てパトロールの時間数に変更になった旨を書きいただいております。この数字に変えておいていただければと思います。

それでは、進捗状況につきまして何かご質問、ご意見はありますでしょうか。

特にないようなので、もし、先に行ってまた後から質問があれば戻ってきても結構ですので、説明を続けていただきたいと思っております。

それでは次に、(2)について、事務局から説明をお願いします。

○環境政策課長 それでは、豊島区環境基本計画におけるSDGsの位置づけについて、ご説明申し上げます。

豊島区は令和2年7月に、SDGsへの優れた取組を行う自治体としてのSDGs未来都市に選定され、さらに、自治体SDGsモデル事業をダブル受賞してございます。これは東京都内では初めての受賞でございまして、最近では、墨田区と江戸川区が選定されたと報道されておりますけれども、そちらに選定されたということでございます。

SDGs未来都市および自治体SDGsモデル事業の制度概要については、本日の資料の中にも記載しているところでございますけれども、豊島区の特徴といたしましては、1ページ目の下の図に書いてあるとおり、3つの面をつなぐ総合的な取組ということで、モデル事業を今、取り組んでいるところでございます。環境基本計画につきましては、もともとSDGsとの位置づけを明確にしているところでございます。

ただ、最近では、豊島区でこういう体系図などもつくっているところですが、最近は他の自治体などの基本計画なども読みますと、どうも豊島区の体系図を後追いするような形で取り入れているような状況かと思っております。その意味で申しますと、豊島区はSDGsというものを先行的に環境の面から取り組んでいって計画の中に位置づけているところだと思っております。その意味で申しますと、SDGs未来都市とモデル事業のダブル受賞ということで、環境への取組、環境への施策についても、逆に後押しをされているような状況かと思っております。

逆に申しますと、私ども事務局からしますと、相当程度もっと頑張れよという意思表示を、エールをもらっているような、そのようなイメージを持っているところでございます。

ページをおめくりいただきまして、裏面になりますけれども、環境基本計画とSDGsの位置づけが書かれているところでございますが、この中で一番下には、SDGs未来都市計

画における環境基本計画の位置づけも書かれているところがございますけれども、SDGs 推進体制の一つとして環境基本計画が位置づけられておりまして、施策については、SDGs の目標を常に見据えた様々な取組という位置づけでございますので、一体となって環境基本計画が進められているといった中身の資料でございます。

説明は以上でございます。

○会長 ありがとうございます。

SDGs 未来都市、それから、モデル事業に選定されて、23 区内では初めてということで、私も実はこの選考の委員をしているのですけれども、豊島区は利益相反があるので私は採点には加わっていないのですけれども、とても評価が高くて、特に国際アート・カルチャー都市、アートとかカルチャーと SDGs を結びつけて取組を進めるというところがあまりなかったといいますか、消滅可能性都市とはいわれましても、池袋等を抱える大変大きな都市が取り組むということでいろいろな都市のモデルになるだろうという評価が非常に高かったように記憶しています。

中でも環境基本計画との整合性であるとか関係というのは非常に高くなると思いますので、ぜひ今後もこの環境審議会も一つの推進力となって、このモデル事業、それから、未来都市と呼ぶにふさわしいものができていくといいなと思っているところです。

今の議題について何かご質問、ご意見がありましたらお願いいたします。

○委員 唐突な話なのですが、法政大学の川久保研究室が、SDGs の日本の自治体の取組を全部網羅的にウオッチできるホームページをつくっていまして、ローカル SDGs などかという名前だったのですけれども、それで豊島区の取組はもちろん紹介されているのですが、一部データが、豊島区さんはせっかくいろいろつくられているのにきちんと反映されていないのではないかと。多分、その研究室の学生さんが一生懸命そのデータを入れているので、日本全国の自治体ですから相当間に合わないのだと思うのですけれども、むしろ豊島区さんのほうから川久保先生と連携を取って、これだけいい取組をいろいろやられているのであれば、川久保研究室のホームページではきちんとそのデータを反映させたほうがいいのではないかと見ていて思ったものですから、それだけです。

以上です。

○会長 ありがとうございます。

川久保研究室の取組は私もちょこちょこ見ながらやっていますけれども、おっしゃるとおり、豊島区に限らず抜けがあるというのも実際のところで、多分、一生懸命やっている最中だと思うのですけれども、ご指摘のように区のほうから言っていただくというのも大事かと思えます。

それから、あそこの指標はグローバルなものをローカルに読み替えているので、どうしても対応する指標が物理的にないというような、ローカル、要は豊島区は豊島区の事情に合わせて見ているので、それで指標ができていますので、あそこのグローバルな指標と同じようなものがないというものの中にはあるという事情もあるのかと思えます。それは多

分、川久保研究室側の問題だと思えますけれども、ぜひ区のほうでもちゃんと評価してもらうように言っていただくといいと思います。ありがとうございます。

○環境政策課長 4月からSDGsの担当課長という専門の課長をつけておりますので、そちらも通じて、きちんと今の委員からのご意見も踏まえて対応してまいりたいと思います。ありがとうございました。

○会長 ありがとうございます。

○副会長 このSDGsのモデル事業とかその位置づけを見ると、私の専門なのですがけれども、公園に対する取組というのがとてもクローズアップされていて、4つの公園とか身近な公園というところでその整備なり活用というのを進めていくというのが重要な位置づけになっていると思います。実際、我々の分野では豊島区さんの取組というのは、いろいろところで先進事例として取り上げられるような状況になっているのですが、環境基本計画、多分、公園緑地の部署と環境の部署とそれぞれいろいろやっつけると思うのですが、環境の側面からこの4つの大きな公園であったり、生活に身近なところの公園に対してどういうふうな貢献というのを求めることができるのかということも考えていかななくてはいけないなと思っています。

どちらかという、レクリエーションとかコミュニティーだとか防災というところが、多分、公園の中では強調されていると思うのですが、環境とその公園との関わりというものを少し、自分自身も考えて発言していきたいと思っていますけれども、そこが重要なのだろうと、環境基本計画の立場からいけば、そういうところが重要なのだろうなと思いました。意見です。

○会長 ありがとうございます。非常に適切な、専門の立場からのご意見をありがとうございます。

事務局のほうで何かありますでしょうか。よろしくお願ひいたします。

○環境政策課長 委員のご指摘は非常に重要な視点だと思っております。本日お示した指標の中でも、緑被率とかそういった指標はありますけれども、そもそも都市における公園と環境といったところ、あるいは公園ではありませんけれども、植樹とか、今は12万本まで区内のいろいろなところに木を植えて緑を増やしているといった取組もしていますので、公園と緑といった視点でどういうふうに取り組んでいくのかというのが、特に都市部における環境という視点では大事な点だと思っております。今年度、公園とみどりの計画も改定という予定をしておりますので、そこのところと、あと、今年も基本計画の後期につきましても改定を予定しておりますので、そういった中で連携もしながら取り組んでいく用意をしております。まだちょっと具体的にどうするかという考えまでには至っておりませんが、そういった中で取り組んでいきたいと思っています。よろしくお願ひいたします。ありがとうございます。

○会長 ありがとうございます。そのほかにいかがでしょうか。よろしいでしょうか。それでは先に進みたいと思います。リーディングプロジェクトの進捗状況についてということで、事務局からご説明をお願いします。

○環境政策課長 それでは、リーディングプロジェクトの進捗についてご説明申し上げます。資料第1-3号になります。よろしくお願いいたします。

このリーディングプロジェクトと申しますのは、環境基本計画に重点施策というものがあります。その中でも優先的に取り組んでいく具体的な事業を指しまして、4つの基本目標と連携・協働、都合5つの柱の中にそれぞれ1つ位置づけているというものであります。

まず、基本目標Ⅰ（脱炭素化）につきましましては、資料第1-3号の1ページでございます。「としま低炭素モデル地区基準」の設定による低炭素まちづくりの推進というものでございます。こちらにつきましましては、新たに低炭素モデル地区基準を設定して、区内の事業者に対して推進していくことによりまして、地域エネルギーの利用の最適化を目指して、低炭素まちづくりを進めていく、まちづくりの観点から取り組んでいくといった視点でございます。こちらにつきましましては、基準が環境性能、エネルギーの面的利用の2面がございまして、そちらの基準を設けておるところでございます。

そして、2023年9月に、サンシャインシティの東側に隣接して開校予定であります東京国際大学池袋国際キャンパスにつきましましては、地域冷暖房熱供給の加入を実現しております。これに伴う供給導管の新設に関わる都市計画決定を、令和元年度に行っているところでございます。まちづくりの中では、まだ表には出ているわけではありませんが、こういった計画の中で着々と進んでいるという内容でございます。

ページをおめくりいただきまして、2ページでございます。

基本目標Ⅱ（自然共生）、みどりやビオトープの維持管理でございます。区有施設に整備したビオトープや「グリーンとしま」再生プロジェクト、先ほど私は植樹と申しましたけれども、そちらは「グリーンとしま」再生プロジェクトによる取組でございます。こういったみどりについて専門家の調査を踏まえて改善していくといった中身でございます。人と自然の共生といった観点からの取組となっております。

まず、1番目の維持管理の改善でございますが、令和元年度は池袋本町小学校、南長崎はらっぱ公園のビオトープについて調査を行っております。ご助言等もいただいているところでございます。参考までに、令和2年度につきましましては、南池袋小学校、仰高小学校、西巣鴨小学校のビオトープの調査も行ったところでございます。

「グリーンとしま」再生プロジェクトのみどりでございますが、これは植樹等で行ったものでございますが、その後の育樹に資するために専門家による調査や実態調査も行ったところでございます。

それから、連携による緑などの保全ということでございまして、地域住民の方々と、電車の見える公園や南長崎はらっぱ公園の「いのちの森」、公園などでも様々な形で植樹を行っていますので、そういった活動などにも取り組んでいるところでございます。

ただ、令和2年度は新型コロナ感染対策もございまして、なかなか実施することが困難だったということでございます。こういった中でも感染対策もしながらどうやって進めていくのかと。事業を中断させるということは、ある意味、その事業が止まるだけではなくて、その地域の方々の熱意とか意識の後退といったところもどうしても考えざるを得ないと思っておりますので、そういったところをいかに継続していくかはこの課題かなと捉えているところでございます。

3ページ目でございますが、こちらは食品ロス削減対策事業でございます。

取組状況でございますが、民間事業者との連携につきましては、令和元年度は女子栄養大学の学長さんを講師に招きまして講座を開催したり、あるいは食べきり協力店として、先ほどの女子栄養大学の中に松柏軒という学食がございまして、そうしたところも含めた区内の23店舗にこの協力店としての登録をお願いして実施したところでございます。

それから、区内で就学援助を受けているご家庭などに、お米やレトルト食品などを無料で提供するといった取組をしてございまして、こちらはTABETEという、民間のNPO法人とか地域の各種団体の方々が主催で連携しながら行ったという内容でございまして、区単体で行うということだけではなく、民間、区内の様々な資源も使いながら実施していったという中身でございます。

それから、フードドライブでございまして、これは廃棄されてしまうような食料などにつきましても、例えば、豊島区民社会福祉協議会を通じて必要な方にお届けをすとか、令和2年度につきましては、様々な形で広報手段を行ったという結果から、食品の寄附数が2,910個、600キログラム強といった状況でございます。

それから、4ページ目でございますが、路上喫煙・ポイ捨て防止対策の充実でございます。

こちらの「(3) 関連する指標」の上から2番目でございますが、路上喫煙・ポイ捨て防止パトロールの時間数の令和元年の実績は、先ほど申し上げましたとおり、2万3516時間は1万1758時間が正しい数字でございます。併せて訂正させていただきたいと思っております。こちらにつきましては、多言語化なども行った形での対策を充実させていくということでございまして、路上シール、喫煙は禁止ですよといったものを道路上に貼り付けるシールがございまして、こういったものについても多言語化を図ることによって、外国の方にもより周知をしながら、喫煙・ポイ捨て対策に取り組んでいこうと。まちの美観についても、外国の方も取り込んだ形で対策を進めていこうといったものが4ページの記載でございます。

5ページ目でございますけれども、(仮称)クリーンサポーター制度でございます。まちの美観につきましては、区内の企業あるいは民間団体の方々が相当程度関与されてい

る状況でございますが、ただ、個別にそれぞれが活動していくということだけではなく、ある意味それを組織化しながらまち全体をどのように維持管理していこうかといったところが、このクリーンサポーター・リーダー制度、特にそれを束ねていくようなキーパーソンとなるような方を育成しながらまちをきれいにしていこうといった中身の取組でございます。

こちらにつきましては、まず、取りあえずどういった活動をしているのかという状況把握をしようということからアンケートを取った内容でございます。活動の登録団体数が143団体で、回答があったのが44件なので、回答率があまり高くはないのですが、その中でも実際に実施している団体、あるいは実施している時間帯、そういったものがこの調査でおおよそながら明らかになってきたのではないかとございまして。ばらつきもありますので、それぞれの活動状況に応じた形でそれぞれ組織化というか活動を束ねていくということが必要なといった総括的な評価でございます。

リーディングプロジェクトにつきましては以上でございます。

○会長 ありがとうございます。

リーディングプロジェクトは非常にめり張りのあるものを選んでプロジェクトとして進めていこうということで、ある意味、今回の基本計画の中でも非常に重要なものだと理解しています。

ご質問、ご意見のある方、お願いいたします。

私から1点確認です。先ほどのこの数値が変わった路上喫煙・ポイ捨て防止パトロールの時間数ですが、これは数値が変わったけれども評価は変わっていないと。◎で5点という理解でよろしいのですね。

○環境政策課長 失礼いたしました。

数値は変わりましたが、目安値から10%以上改善しているという状況でございますので、◎の評価には変更はございません。

○会長 ありがとうございます。

それでは、リーディングプロジェクトについて、ご意見、ご質問をお願いいたします。

○委員 いろいろありがとうございました。

私は専門が環境教育なので、今のところの5番目の連携・協働のクリーンサポーター・リーダー制度というところ、それから、先ほどの議題の評価結果の5のところも併せて一言話させていただきたいと思っています。

先ほどのところの連携・協働のところは2.6という数値で評価点の平均が非常に低かったわけですが、今回、クリーンサポーター・リーダー制度のところの進捗状況は○ということなので、その中でもここを頑張ったのだなということは理解します。

ただ、毎回の環境審議会の中で発言させていただく中で、環境教育の取組というのはどうしてもやはり量的な評価にそぐわない部分があると思っています。例えば、先ほどもお

話があったとおり、このクリーンサポーターですけれども、活動していない団体も恐らくある中で、その 143 団体を数字として評価しているということになっていて、やはりどうしても質的な評価というものが必要になってくるのかなと思っています。

逆に言えば、1 団体でもしっかりやっているところがあれば質的には非常に高いという判断もすることができると思っています。現状のこの評価の仕組みの中では、その質的なところをどういうふうに評価するかというところがまだ決まっていないし、毎回お話はさせていただいているのですけれども、これも今後の検討課題ということで、特に連携・協働のところというのは、数字目標を立ててそれに数値がどういうふうになったからこれは成功したのだとか、届かなかったから失敗なのだとか一概にそうは言えない部分だと、特に重要な部分だと思っていますので、一言だけ私の意見として述べさせていただきます。ありがとうございました。

○会長 ありがとうございます。

いかがでしょうか。事務局のほうでレスポンスをお願いします。

○環境政策課長 ご指摘ありがとうございます。 前回の審議会の中でも質的な評価といったご意見もいただいております。答えがなかなか見いだせないまま時間だけがたっているという状況になっております。ただ、この連携・協働といったところも、例えば、まちをきれいにするといった視点も、例えば、ごみが1つも落ちていない状況を指す形になるのか、それとも、連携・協働といった形で皆さんが手を携えながら取り組んでいるといった姿勢が目標値になってくるのか、なかなか難しい点かと思っています。

後ほどご説明申し上げますが、豊島区としてもゼロカーボンに取り組んでいくといった取組もこれから行っていかなければいけない中で、今、委員がおっしゃられたような、まちをきれいにしていくクリーンサポーターといった視点も大事なのですけれども、それ以外にも様々な温暖化対策なりいろいろな取組についても連携・協働を進めていかななくてはいけないといった指標がありますので、そういった中で全体としてどういった評価をしたほうがいいのかということも併せて宿題として考えていきたいと思っています。

○会長 ありがとうございます。

委員、例えば、質的な指標というところとどういうことが考えられるかとかをご示唆いただけますか。

○委員 具体的に何をやっているかということですね。何をやったことによってその住民たちはどういうふうにコンフォータブルな生活になっていったのかとか、そういったことはアンケートという形で取るのがなかなか難しければインタビューという形とか、拠点を決めて定点的にどういうふうにいるとまちが変わっていったのかとか、幾つかやり方はあると思うのです。システムチックにやれなかったとしても、こういう評価書の備考欄にやはりどこか、数値としてはこうなのだけれども、こういう成果が上がって

いるとか、そういうことを書き込む余地みたいなものがあったほうがいいかと思っています。

○会長 なるほど、ありがとうございます。せっかく委員もいらっしゃるの、ぜひ何か連携しながらできるといいなと思います。引き続きご検討のほどよろしく願います。ほかにいかがでしょうか。

○委員 先ほどのところでも言おうと思ってここに回したのですけれども、残念ながら、この資源循環のところはいつも成績が悪くて、特に3番の食品ロス削減に関してなのですが、先ほど委員がおっしゃったことと全く同じで、これを測る指標が、実は講座の回数だけになってしまっているのが全然駄目という評価になっているのです。でも、ここに書かれているように実際にどのような取組がされているかといえば、フードドライブをやって、それを一部 WAKUWAKU さんとかに無料で差し上げているということが実績としてあるわけですね。ですので、本来であればこれはどのくらいの循環利用を促したか、あるいは食品ロスがどのくらい削減できたかという実量で評価すべきだと思います。

あと1つだけ。フードドライブで603キログラムぐらい集まっているのですが、実際に無償提供したのが37キログラムにとどまっているのですけれども、この残りは一体どこに行ったのかということをお教えください。

それから、食品ロスとは直接的には関係ないのですが、去年、コロナ禍において巣ごもりになったことから、テイクアウトあるいは配達のお食事が激増したおかげで、23区どこでもそうなのですけれども、プラごみの排出が増えています。プラスチックに関してはこれからのゼロカーボンシティあるいはSDGsの推進に関しても、恐らく重点課題に加えてはいけない課題になってくるかと思うのです。その中で豊島区はまだ容器包装リサイクル法も実施しておりませんし、プラボトルだけを集めるのにとどまっている。ここも併せて、食品に関わる容器包装あるいは製品プラスチックのリサイクルあるいは発生抑制に向けてどのようなことを取り組まれるおつもりがあるかどうか、よろしければ教えてください。

○会長 ありがとうございます。

事務局からご回答のほど願います。

○ごみ減量推進課長 今の2点についてお答えさせていただきたいと思います。

まず、フードドライブで集めた食品の行き先というところがございますけれども、こちらは通常、社会福祉協議会を通じて子ども食堂とか、子ども食堂などを運営しているNPO法人といったところに全量をお渡しさせていただいております。このときに、フードサポートプロジェクトの際は、社会福祉協議会を通じず、この主催をしているTOSHIMA TABLEのほうに、このために期間を区切って集めて直接お渡しをさせていただいたというものでございます。したがって、この間、通年で集めておりますフードドライブで集めた食品については、全て社会福祉協議会を通じて必要としている方にお渡しをしているという状況でございます。

それから、もう1点でございますけれども、コロナ禍でのプラごみの状況を踏まえてのプラスチックの資源回収等に向けた方針ということについてでございます。こちらは、本年3月に、区の一般廃棄物処理基本計画を改定いたしました。その中で、プラスチック製容器包装の分別収集について検討を行っていくというものを今回、重点的なテーマとして掲げさせていただいております。

容器包装についての分別収集の検討を始めていくことで考えているところでございますが、この中で3月に国から、製品も含めたプラスチックの収集の体制をとるところも上がってきたということで、そういった方針も示された中で、製品についても併せてどのようにやっていくかを、今後併せて検討していくところでございます。こういう法の動向も踏まえて、容器包装、それから製品についてどのように収集していくかという方針を今年度定めていきたいというところで検討を進めていくところでございます。

以上でございます。

○委員 ありがとうございます。

○会長 ありがとうございます。ほかにご意見、ご質問はいかがでしょうか。

○委員 今の話は私も思っていたところがありまして、久しぶりに環境基本計画をもう一回眺めているのですが、「プラごみ問題はどこにあったかな」ということで一生懸命探したのですが、どうも項目が出ていないのです。今後の話になるとは思いますが、プラごみ問題が抜けているという感は否めないで、これは今後修正していく必要があるのかなと私は思いました。

以上です。

○会長 そうですね、大変重要なご指摘だと思います。これをつくった頃にはまだ今ほどいろいろ話題になっていなかったということもあったと思いますけれども、やはり今や、ないとちょっと遅れているなという感じがどうしてもしてしまうので、次の議題のゼロカーボンの話もそうですけれども、やはり時代に合って、いろいろな動きに合わせて進めていく話だと思いますので、これはぜひ今後検討できればと思います。

○副会長 リーディングプロジェクトの中の自然共生の部分なのですが、他の委員の方の議論と一緒に、どれだけビオトープができたかとか、どういうふうに維持管理、地域がどれだけ管理しているのかという取組的な部分という指標はあると思うのですが、本来はビオトープの整備によって生態的な質が向上したかどうかというのが重要なポイントで、そのためには、指標生物みたいなものを決めてモニタリングして、生物多様性が上がったよねという評価を本来はすべきであろうと思っています。

ただ、現状の体制でそれができるかということ、生きものの目録とかがないのでなかなか難しいのだと思いますが、ビオトープに関しては専門家も含めて調査されていると思いますので、その部分に関しては生態的な質の評価ができるのではないかと思います。例えば、こんな生きものは今までいなかったけれども、ビオトープを管理していたらこん

なのが出てきたということではできないのではないかと思います。将来的にはやはりモニタリングというのをやっていくということが必要なのだと思います。

それに関連すると、生きもの調査に参加する区民の数というのが目標値に上がってまして、例えば、生きもの調査とビオトープの生きもの調査、モニタリングというのを組み合わせるとか、何かそういうことをしながら質の評価ができないのかなと思うのですが、けれども、実際に今の生きもの評価をどのようにされているかは分からないのですが、そのビオトープの維持管理の成果というのを見る部分に、その生きもの調査の区民参加というのがうまく重なるといいのかなと思いました。

以上です。

○会長 ありがとうございます。ほかにご意見はいかがでしょうか。

○委員 今の委員のご発言で、生きもの調査とかビオトープの維持管理をしていく上で生きものがどういうふうに変わっていったかモニタリングが大切というお話ですが、具体的に、私は西巣鴨小学校のビオトープを保護者の方と維持管理しています。例えば、西巣鴨の場合、例年、アズマヒキガエルばかりが卵を産みに来てオタマジャクシがいる環境のところ、先日、アマガエルが2匹いまして、20年近く関わっているのですが、初めて見ました。維持管理を1年半か2年ぐらい前から積極的に学校の協力を得ながらやっているので、そういうふうに変化が見られたのでしょうか。また例えば、ヤゴも最近はかなりたくさん繁殖してトンボになって旅立っていますので、実際に関わっていく中で、そのように生物の多様性が増しているなというのは実感しております。実際に環境がよくなると生きものがとても増えてくるということ、この場でお話しさせていただきたいと思いました。以上です。

○会長 ありがとうございます。

○委員 私も清和小学校のビオトープをここ20年ぐらいお手伝いさせていただいています。今日持ってきたのですが、「生きものさがし」のニュースターです。ここに実は清和小学校の生きものもいて、私もこの「生きものさがし」に参加しました。清和小では実は30種類ぐらいの昆虫を確認できております。それを私も報告書に上げております。本当に区民として調べてその数字を上げて、この「生きものさがし」を清和小学校の掲示板に貼らせていただいて、これとこれは清和小にいましたよということまでやらせていただいております。確かにこの数字だけでは分からないというのは本当に委員の方のおっしゃるとおりだと思います。何度も申し上げますが、やはり質ですよ。何種類ぐらいの生きものが観察できたか、どんな感じになっているかということが大事なのではないかと思います。

あと、もう一つお話しさせていただきたいのは、清和小のビオトープは外壁工事が始まって、今まで10年間育てていた木を全部切らなくてはいけなくなってしまいました。本当に去年は30数の生きものが確認できたのですが、多分、今年は生きもの確認は減ってしまうのではないかとということで、学校の整備ということとビオトープの管理

というものの間が難しいということをととても感じました。学校の整備のほうはまた課が違ふということで、実はこの木は切らないでほしい、抜かないでほしいと言ったのですけれども、壁を造ることのほうが大事だからということで、今はとても大変な状態になってしまっているのです。その代わりに新しい木を2本植えてくれるのですけれども、10年かかって生きものたちが来る環境をつくってきたのに一瞬で壊されてしまったというのがとても悲しいです。

なので、本当に区民としてビオトープに関わっていくというのもいろいろなことがあるのだなと思っています。でも、やはり自然が好きでその環境を整えてあげて、未来の子供たちにこの環境を使っていろいろなことを知ってほしいので、今後もお手伝いしていきたいと思っています。

以上です。

○会長 ありがとうございます。非常に地に足のついたご意見をありがとうございます。

やはりそういうときに対話のプロセスがすごく大事だと思うので、ぜひそういったプロセスも、結果だけではなくて大事にしていくようにしていただきたいと思ひますし、何かあればぜひこの環境審議会の場でもいろいろ状況をシェアしていただければと思ひます。

先ほどからやはり質的な評価というもののお話が何度か出てきていますので、例えば、コラム的であっても評価の中にそういったものを今後ぜひ入れるように検討していただきたいと思ひます。この審議会の意見として、ぜひ質的なところを取り入れていきたいというふうな要望が出せればと思ひますけれども、いかがですか。

○環境政策課長 今、主に自然共生といった視点からご意見もいただいたかと思ひておりますが、環境に関しては、例えば、CO2 などについては数値として出せるものも多々あるかと思ひます。それ以外のものについては、例えば、まちの光景が今までこうだったけれどもこう変わったとか、あるいは紅葉の時期が、今年はちょっと梅雨が早く入ったとか、自然のこともそうですし、気候変動といった観点からも非常に定点観察をしていて、それが我々の生活にどう影響していくのだろうかといったところを、計画の指標だけではなくて、区民の皆さん、あるいは豊島区に来街される方と意見を共有しながら環境に取り組んでいくということが非常に大事な視点かと私は思ひています。ただ計画をつかって数字のとおり進捗していくということではなくて、それを区民の皆さんと共有して行って、いかに地球環境を守って次世代に引き継ぐかといった視点が非常に大事かと捉えさせていただきました。指標は計画の中の進捗管理で非常に大事な視点でありますので、これはこれとして生かさせていただきながら、その行間を埋めていくというか、数字に表れないことについてもどういった形でこれまでのまちの流れとかまちの景観とか自然がどう変わっていったかということをも十分評価できるような形、後で振り返ることができるようなデータの収集なども進めていきたいと思ひてございます。ありがとうございます。

○会長 非常に心強いお言葉をいただきましてありがとうございます。

ぜひ今おっしゃったことを進めていただきたいと思いますし、多分、昔だったらまちの中でそういったことを話しながら代々受け継がれていくということもあったと思うのですが、今はなかなか人の動きも激しいので残されない中で、こういったペーパーという紙に残しておくということも非常に大事だと思いますので、ぜひ質的な情報も残しておいていただければと思います。ありがとうございました。

時間があと 30 分ぐらいになってきましたので、それでは、次の課題です。これもまたいろいろご意見があると思いますので、「2050 としまゼロカーボン戦略」について、事務局からご説明をいただいてディスカッションしたいと思います。ご説明よろしく願いいたします。

○環境政策課長 それでは、資料第 1-4 号をお取り出しいただきたいと思います。「2050 としまゼロカーボン戦略（仮称）」の策定についての資料でございます。

まず、背景でございますが、これまで、2050 年のゼロカーボンに向けた動向が、世界あるいは日本の中でも急速に進んでいるといったところでございます。その動向を（1）の欄でお示しをしているところでございますが、豊島区としても、SDGs 未来都市、モデル都市へのダブル受賞も踏まえ、豊島区としてもこういった動きをさらに加速させるがために、2月に豊島区はゼロカーボンシティを目指すということを議会の中で表明させていただきました。これは、2050 年カーボンニュートラルを明確に打ち出して区として取り組んでいこうといった宣言となっているところでございます。

下の（2）でございますが、最近、気候変動サミットも行われておりまして、その中で各国が表明された削減目標を一覧にしたものでございます。

下から 3 番目の日本でありますけれども、2013 年度比で 2030 年までに 46%削減といった目標にしております。これまでは 2013 年度比 26%減を国が目標としておりましたので、ほぼ倍に近い形での数値目標の変更になっております。

次のページをおめくりいただきますと、豊島区ゼロカーボンシティ宣言ということで、先ほど私が申し上げましたとおり、2月の議会において宣言いたしました。これにつきましては、2050 年に二酸化炭素排出量を実質ゼロにすることを首長自らが、あるいは地方公共団体として公表した団体がこのゼロカーボンシティというものでございますけれども、全国でも数は多いわけでございますが、23 区の中では 3 番目に表明してございます。直近で申しますと記載のとおりでございますが、冒頭に申し上げましたが、この後も何区か宣言をしたいという動きがあると伺っているところでございます。市部につきましても記載のとおりのものでございまして、都内でも 4 番目の宣言の順番ということでございます。

こちらにつきましては、【ゼロカーボンシティに向けたイメージ】ということで、まず、ゼロカーボン戦略というものをつくってみましょうというものでございます。後ほどご説明申し上げますけれども、環境基本計画というものは 2030 年に向けた明確な区として

の基本方針、基本計画というものでございますので、会長も先ほどおっしゃられましたけれども、直近の様々な急激な動きに対応するがために、豊島区としてどうした形でゼロカーボン達成していくのかという道筋をこちらの中で明確に表現していった中で、できましたら区民の方々とその中身を共有しながら進めていくような中身にしていきたいと考えております。

(4)でございますが、これも1年、2年という長い期間をかけて策定をしているうちですとまた時代が変わってしまいますので、なるべく早い段階で策定をしたいと思っております。

本日、こちらでご了解いただければ、各委員の皆様にも個別にご意見等もいただきながらその意見を反映させていって、この戦略をつくっていかうと考えております。大まかなところは事務局でつくっていききたいと思っておりますけれども、その中でも皆様、様々な専門的な知見などをお持ちの方々に対して、こういったところを使ったほうがいいのではないかといたところも補足しながら進めていく中身にしていききたいと思っております。まだ細かなスケジュールは決まっておりますけれども、7月ぐらいには個別にご意見などもいただきながら進めていききたいと思っております。

最終的には、年度内にこちらの戦略については作成していききたいと思っております。

次のページでございますけれども、これは環境基本計画等に関わる様々な国や東京都などの計画関係のこれまでの動向を示した資料でございます。

そして、4ページでございますが、先ほど私が申し上げましたとおり、戦略の位置づけでございますが、基本計画をこのゼロカーボン戦略に置き換えるわけではございません。当面、2本柱で進めていくというものでございまして、まず、2050年に向けたゼロカーボンといった動きを踏まえながら、ゼロカーボンに特化した形のものをつくっていきましょうと考えております。将来的にはこうしたものも含めて一本化する、あるいはゼロカーボン戦略自体は相当中長期的な考え方になりますので、東京都などもゼロカーボンの戦略につきましての同様なものをつくってございまして、その都度内容を更新していくような形になりますので、そういった形も方法としてはあり得ると思っております。

次の5ページ目がイメージとなっているところでございまして、まずは今、環境基本計画で2030年39%の削減目標をつくっているところでございまして、国が46%という数字を掲げておりますので、できましたらそれを上回るような形での取組ができないかということで50%という数字を掲げさせていただいているところでございまして。例えば、区単独の様々な施策だけでこういった取組というのはなかなか難しいわけございまして、時代の技術革新など様々な要素があつてこそ達成はできるかと思っておりますけれども、幾つかのシミュレーションなどもしながら、こういった形で進めていけるのだろうかといったところを戦略の中に落とし込んでいきたいと思っております。

5 ページ目の下のところには、現段階で想定されるであろう幾つかの柱を記載させていただいておまして、先ほど委員の方々からのご指摘もありましたとおり、プラスチックに関しましても、プラスチックの循環型社会といったものを含めて取り組んでいこうということで、これが冒頭申し上げました SDGs 未来都市のエンジンとして環境が回していくような取組ができるような、そういったイメージを持っておるところでございます。

次の参考資料でございますけれども、5 月 14 日時点で日本の中でどれだけの自治体がゼロカーボンシティを宣言しているかといったところでございますけれども、こちらの資料ですと 386 自治体、先ほど調べましたら 388 自治体と増えておりますので、この数は日々増えてくるということでございます。全国の数でこれだけありますけれども、豊島区としてどれだけゼロカーボンとして取り組んでいけるか、チャレンジができるかといった中身になろうかなと思っているところでございます。

先に飛ばさせていただきますが、その次のページ以降がゼロカーボン戦略策定に向けた基礎データということでお示しをしております。温室効果ガスやあるいは人口動態、世帯動態、事業数の数といったものをベースとしながら、今後、ゼロカーボンに向けた取組がどういったところで必要なのか。本日の資料で申しますと、相当程度アクセルを踏みませんとなかなか達成できないという状況ではございますけれども、世界の潮流の中でゼロカーボンに取り組んでいくという豊島区としての姿勢をどういった形で見せるのかというのが、この戦略の位置づけと考えているところでございます。

ゼロカーボン戦略につきましては以上でございます。よろしく申し上げます。

○会長 ありがとうございます。

ゼロカーボン 2050 年に挑戦するというので、この環境基本計画ですと 2013 年度比 39%削減というのを積み上げて、どのぐらいまで削減できるかというので計算してきてそうなったわけですが、それからプラス 11%さらに深掘りすると。だから積み上げではなかなかそこまで達成できないところをやっていくということで、いろいろな方策の組合せといったことが必要になるのではないかと思います。戦略を今後策定していくということで、12 月頃に素案ができるようにということなので、半年ぐらいこれから詰めていくということになると思いますけれども、今日はその皮切りになるディスカッションということですので、戦略策定に向けた観点であるとかいろいろな視点であるとかアイデアをぜひ皆さんからいただければと思っています。自由にディスカッションできればと思いますので、ご自由にご発言いただければと思います。よろしく申し上げます。

○委員 事務局からのご説明、誠にありがとうございます。

私どもはエネルギー事業者で、まさに直面する課題ということだろうと思います。2050 年のこの脱炭素のカーボンニュートラルというのは、国指導でかなり加速しているということで、私どもエネルギー事業者をはじめとして様々な事業者が様々なシナリオで 2050 年に向けて今、取組をスタートしているということなのだろうと思います。

今、事務局の方からご説明いただいたように、特に 2030 年については 46%ですとか、あるいは都は今、カーボンハーフということで 50%削減ということで出しておりますので、それらを踏まえて豊島区としてこのような目標設定をされるというのは大変意義が大きいことだろうと思っております。

自治体はやはりこういった CO2 削減の推進役ということで、2030 年で 50%削減といえますと、かなりこれは実効性が高く具体的な施策というのを今後やっていかないといけないということなのだろうと思っております。

例えば、ガス会社では家庭用燃料電池といったものを普及させようということで、これは 1 件当たり年間 1 世帯で 1 トンぐらいの CO2 の削減があるのですが、こういったものを普及させていかないといけないということなのですが、やはりまだまだ区民の方々のご理解とか、よく行動変容と言われてはいますけれども、そういったところを加速していくというのが一つ重要なファクターになってくるのではないかと思っております。

それから、最後に 1 点だけですが、SDGs の視点も含めて、この環境の政策のお話をする際には必ず社会面とか経済面とか複合的な要素を全て勘案して議論していくというのが重要だろうと思っております。経済面はもちろんのこと、やはり災害ですね。そういったところのエネルギーセキュリティをどうするかとか、そういった視点も含めて総合的に在るべき姿を政策に落とししていくというのが重要だろうと思えます。

以上でございます。

○会長 ありがとうございます。

○委員 私どもも豊島区の環境施策及び温暖化対策に貢献してまいりたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。今、お聞きした意見は本当にもっともだと思えます。

昨日、国で改正地球温暖化対策推進法が成立しまして、国として法律の中に 2050 年脱炭素ということが明記されましたので、本当にこれから脱炭素の動きが加速していくことと思えます。その中で、地方自治体の役割というものも非常に重要なことになってくると思えます。

さっきおっしゃられたように、2050 年ゼロというのは本当に厳しい目標でありまして、かつ、2030 年までに半減ということも非常に重要なのですが、これまでも温暖化対策をした中でなかなか大きくは減らせないような実情がありました。ですので、急激にこの後 10 年足らずの間に半減というのは、社会のシステムを大転換しなければ達成できないと言われてはいます。ですから、環境分野だけではなくて、ありとあらゆるいろいろな分野が連携し、かつ、地域間の連携も加速して全員が取り組まなければいけないことだと思えます。

先ほどおっしゃられていた防災の観点とか、あとは廃棄物の観点と、全て温暖化対策とも密接に関連しております。2015 年の台風のときの停電でかなり多くの熱中症の方が出ておりますけれども、そのときに太陽光発電と蓄電池のセットがあつたりすれば大分違

っていただろうと思いますし、また、食品ロスがリーディングプロジェクトになっておりますけれども、食料システム、つまり生産から販売、消費、廃棄に至るまでの一連の中で排出される CO2 等の温室効果ガスですね、これが人為起源の温室効果ガスの 21%から 37%も占めているわけです。こういった食料というキーワードだけ考えることについても、温暖化を減速させる手法があるということで、とにかく省エネルギー、エネルギーのほうばかり着目されますけれども、廃棄物を減らすとか、あるいは無駄に捨てられる食料を減らすことによっても地球温暖化を減速させることができるのだということを、より広く啓発する必要があるのではないかと考えております。以上です。

○会長 ありがとうございます。

食料廃棄は別のところで先ほど出てきたりしましたけれども、非常に気候変動対策に関係してくるということで、今、ご指摘があったようにいろいろなところで総力を挙げないと達成できないものだと思いますので、そういったことも視点として大事だというご指摘ですね。ありがとうございます。

○委員 先ほどの続きのようなことになってしまうのですが、もしかするとこの次に出てくる話題にもなるかと思うのですが、ドラスティックに CO2 を減らしていくためにはどうしたらいいかという話になったときに、先ほど食料が 21%という話もありましたが、エレン・マッカーサー財団の試算では、物質をつくるプロダクツの部分から 45%、エネルギー転換で 55%の CO2 が排出されていると言われております。日本はこのエネルギー依存率が非常に高いので、もう少しプロダクツよりもエネルギーのほうが CO2 排出量が多いのです。すみません、温室効果ガスを全部 CO2 と言っていますが、そうなると、今、先立って見てしまっていたのですけれども、区民ひろばとか小学校、保育園等々の電力が再エネでということが進んでいるようで非常にいいなと思っているのですが、一方で、世田谷区のように、もう一声踏み込んで再生可能エネルギーを区として買い上げて、例えば、区庁舎の電力と公用車を EV に変えて、その電力で動かすといったことをさらに進めていくと大きく加速できるのではないかというのが一つです。

もう片方のプロダクツの部分なのですが、食料の食品廃棄物を減らすというのは非常に重要でして、なぜかというと、80%が水分なのです。これをわざわざ焼却するというのがいかにエネルギーの無駄かということもあるのです。ただ、カーボンニュートラルの物質だと思われているので、基本的に LCA をやってもこれは CO2 に換算されないのです。したがって、食品廃棄物の減量、削減というものは実はあまり進んでいないというのが現状なのです。

そういう中で、リサイクルすればいいという発想ではなくて、プラスチックも含めてやるべきは 2R、つまり発生抑制と再使用を重点的に進めていかななくてはいけないと考えています。例えば、箕輪町や秩父市などと連携しているという話もありますので、その中から使い捨てプラスチックではなくて木製のものに変えていくとか、何らかのリユースで

きる食器に変えていくとか、そういったことを区としても少し支援していくような仕組みがあったらいいのかと思います。以上です。

○会長 大変ありがとうございます。

そのほかにいかがでしょうか。あと5分ぐらい、議論のお時間がまだありますけれども、よろしいですか。

○委員 少し厳しいことを言わせていただくと、食品ロスを減らしましょうというかけ声をかけるだけだと絶対に減らないのです。

先ほど、ホームページの中で「食品ロスをなくそう！」という冊子を見せていただきましたけれども、これはまず、多分、食品ロスを排出している人たちは読んでいないですよ。そこに届かないというのが、やはり食品ロス削減の一番大きな課題だと考えています。フードドライブも福祉的な寄附というほうが大きくなってしまって、必ずしも家の中にあって余っているからごみにするぐらいだったら差上げようと思って行動を取る人は、実際はほとんどいないと言われているのです。

ですから、これが悪いと言ってやるなということではないのですが、もう少し実のある削減をきちんと政策としてやっていかれようと思っていらっしゃるのであればなのですが、一つには、現在、豊島区から出ている家庭系の食品ロスがどのくらい可燃ごみに含まれているかという実態把握調査をやらせていただきたいと思っているのです。3年ほど前に提案させていただいたときには断られてしまったのですけれども、ぜひ一度確かめてみて、それをどのように減らしていくかというのを実態把握から始めないと、なかなか有機的な動きにならないのかなと思っているのが一つです。

それから、現在、同じことを考えている他区の方々がいらっしゃいまして、特別区長会の研究機構のほうで食品ロスを減らすためのナッジの研究を今、始めたところなのです。そちらについても、また来年度に報告書が出来上がりましたらフィードバックさせていただきますので、参考にしていただければいいかと思います。以上です。

○会長 ありがとうございます。

○委員 いつも言っているのですけれども、緑はやはり街を冷やすのです。例えば、うちの堀も公園緑地課で頂いたつる植物で覆っているのですけれども、まちを歩いているときに緑の植物の横を通るとコンクリートの塀や壁の横を通るとでは、輻射熱が全然違うのです。それで緑のカーテンもすだれと違って輻射熱がないので部屋のエアコンの設定温度も違ってくるのです。

それから、100本の木をまとめて植えるよりも、100軒の家が木を1本ずつ植えたほうが冷やすということもあったりして、集合住宅のベランダでは、大きめのプランターで草花もいいのですけれども1本の木を植えるということをちょっと心がけると違うと思います。

集合住宅でないところではプランターではなくて地面、例えば30センチメートル四方でもいいので地面を残して木を植える。木が植えられなかったら草でもいいのですけれ

ども、地面を、自然を残すということは生物多様性にもつながりますし、こういう都会で生物多様性といったら、地面がどんどん減っているということはとても大きな問題だと思ふのです。地下水もそういうところがどんどん減っていくと水脈も変わってしまったたり、なくなってしまうというところも聞いています。ですから、地面を残すということで、大雨のときの都市の洪水もそうですけれども、浸透ますの普及も大事かと思ひます。

そして、木の多いところでは鳥の数も多いというように、やはり生物多様性にもとても関係しているので、そういう方向性というか啓蒙もしていただけたらと思ひます。

以上です。

○会長 ありがとうございます。

ぜひ今の観点も、木とか緑が冷やすという観点を入れていただければと思ひます。

時間になりましたので、本日のところはこの辺りで終了としたいと思ひます。ご意見がある方は、ぜひメール等でも送っていただければと思ひますので、引き続きよろしくお願ひいたします。

そのほか、何かもしお気づきの点、ご意見等、全体を通してございましたらご指摘いただければと思ひますが、いかがでしょうか。 それでは、これをもちまして、令和3年度第1回「豊島区環境審議会」を閉会させていただきます。ご出席、ご議論いただきまして大変ありがとうございました。

最後に、事務局から連絡事項があるということなので、事務局にお戻しします。よろしくお願ひいたします。本日はありがとうございました。

○環境政策課長 本日は長時間にわたりましてありがとうございました。また、事務局側の様々な制約もございまして開始が30分程度遅れてしまったことをおわび申し上げます。申し訳ございませんでした。

最後に2点ほどお伝えさせていただきたいと思ひます。

1点目が会議録でございます。本日の会議録につきましては直ちに作成作業に入りまして、委員の皆様には6月中の確認を、ご連絡させていただきたいと思ひます。それから、原則として、会議での発言をそのまま記録させていただくものになりますので、ご発言に間違いがないか確認させていただきたいと思ひますので、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。確認が終わりましたら、ホームページに掲載するという予定となっております。

2点目でございますが、次回の審議会でございます。今年度からは、上半期と下半期1回ずつの開催にさせていただきたいと思ひます。昨年度からコロナの関係で延期をさせていただいたという経緯がございますが、今年度は先ほど申し上げましたとおり、ゼロカーボンシティの戦略の策定もございまして、ぜひもう一度、12月頃に開催させていただきたいと思ひます。戦略につきましては、12月の際にいきなり皆様

方にお出しするわけではなくて、ヒアリングをしつつつづいていながら、途中でもう一度、ご意見も集約しながら何回かフィードバックをさせていただくといったスケジュール感で進めたいと思っていますので、皆様方にはメールとか様々な形でご相談あるいはご連絡させていただきたいと思っておりますけれども、その際にはどうぞよろしくお願ひしたいと思ひます。

説明は以上でございます。

本日は、長時間にわたりましてどうもありがとうございました。

○会長 ありがとうございます。

<p>提出 された 資料等</p>	<p>【資料第 1-1 号】 2019 年度「豊島区環境基本計画 2019-2030」 成果指標・取組指標の評価結果</p> <p>【資料第 1-1 号（参考）】 2018 年度「豊島区環境基本計画 2019-2030」 成果指標・取組指標の評価結果</p> <p>【資料第 1-1 号（別紙）】 指標項目別進捗表</p> <p>【資料第 1-2 号】 豊島区環境基本計画における SDGs の位置づけについて</p> <p>【資料第 1-3 号】 リーディングプロジェクトの進捗状況について</p> <p>【資料第 1-4 号】 「2050 としまゼロカーボン戦略（仮称）」策定について</p> <p>【資料第 1-5 号】 2050 年二酸化炭素排出実質ゼロ表明自治体</p> <p>【資料第 1-6 号】 ゼロカーボン戦略策定に向けた基礎データ</p> <p>【資料第 1-7 号】 自治体間連携によるカーボン・オフセット事業について</p> <p>【資料第 1-8 号】 秩父新電力による豊島区公共施設への電力供給について</p> <p>【資料第 1-9 号】 エコアクション 21 の更新について</p> <p>【資料第 1-10 号】 豊島区の環境施策に関するご意見等について（概要）</p>
---------------------------	--